

◆第17回近畿高等学校弓道選抜大会

1月17日(日)於:明石市兵庫県立弓道場
個人戦は男女各36名、団体戦は男女各14校が参加。
奈良県勢の結果は次の通り。

▽女子個人戦

第6位 高田商業高校 生田瑞貴

▽男子個人戦

第1位 橿原高校 高間光司

第3位 橿原高校 丸和浩

第7位 郡山高校 中村亮太

▽女子団体戦

第2位 高田商業高校

竹花愛・鶴谷直美・生田瑞貴・中家安祐美

第3位 橿原高校

藤田葵・山本真悠子・加藤美緒・樋口若奈

▽男子団体戦

第1位 橿原高校

丸和浩・高間光司・山本雅也・坂口賢

◆第6回 中高交流会

1月30日(土)、橿原高校弓道場に於いて、中学校5校26チーム、高校12校12チームの計38チームが集まり、交流試合を行った。競技は4人立の団体戦で各自8射(計32射)の予選を行い、中学校上位4チームと高校上位2チームで決勝トーナメントを行った。



<<結果>>

決勝トーナメント

準々決勝

香芝中学B10中 対 橿原高校15中

法隆寺国際高校8中 対 八木中学A11中

準決勝

香芝中学C11中 対 橿原高校15中

八木中学A7中 対 大成中学A5中

決勝

橿原高校13中 対 八木中学A10中



No. 11

元横綱の朝青龍、オリンピックの國母選手とスポーツ選手の品位・品格がマスコミを賑わしております。一部の人ではありまじょうが、指導者のあり方も問われています。我々、弓道を学ぶものとしても、心したいものと思います。

私事ですが、本日15日で、放射線療法も終わりました。あと1週間ほど、副作用が続くようですが、治療もこれで一段落しました。会員の皆さんには、ご心配、ご迷惑をおかけしてきましたが、もう少しで連盟行事にも復帰できると思います。よろしく願いいたします。

会長 吉本清信

■第38回奈良市武道寒稽古会・参禅会

今年も奈良市・奈良市教委・奈良市武道振興会主催の寒稽古会が1月15日~17日(午前6時~7時)の3日間行われ、弓道も参加しました。

15日(金)は6時から総合開会式、17日(日)は7時から総合閉会式がありました。

開会式で「寒い、眠いと言わず稽古することが大事」「最近是我慢することが減ってきた」などのお話がありました。寒さに耐えて行う寒稽古は、精神力を鍛えるのに意義があるということなのです。

15日(金)は6名、16日(土)は13名、17日(日)は16名の参加でした。

3日間ともとても寒い日で、気温は0度前後、凧はもちろん水道も凍りついていました。

せっかくの稽古の機会です。すべて一手座射、5人立ちで行いました。とても冷たく手もかじかんでいますが、射場に入ると冷たさを忘れてしまいます。澄んだ弦音が心地よさを誘います。最終日には、ぜんざいを食べて寒稽古を終わりました。次回は、さらに多くの方の参加をお待ちします。

(深田紀美子)



■第6回大学連合会講習会報告

1月24日 橿原公苑弓道場 参加者30名
主任講師：新司正人県連副会長
講師：指導部 上田康夫部長・平木一史・
吉岡三保子・明瀬憲正

奈良県弓道連盟大学連合会の射技・射術の向上と大学間の親睦を目的とし、各大学のキャプテン・リーダー等を対象とした講習会が行われた。午前は奈良教育大学学生3名による矢渡しと全員による審査の間合いでの一手行射、および新司主任講師からの講話、呼吸に合わせた動作の練習が行われた。午後からは「手先の弓にならず、体を使った弓を引く」をテーマに射技研修が行われた。

新司主任講師は「ただ単に言われたことをするのではなく、なぜそうすべきかを考えて弓の稽古に取り組むこと。数稽古をし、体で覚えること。ここで学んだことを持ち帰り、後輩の指導に役立ててほしい。」と語られた。参加大学：奈良女子大学、奈良教育大学、奈良県立医大、帝塚山大学、天理大学、奈良大学、
(指導部 平木一史)

◆県高等学校新人大会兼学年別弓道大会

北部は2月7日(土)、南部は8日(日)に橿原公苑弓道場に於いて開催。競技は、3人立・立射・各自4射で団体・個人戦で行われ、入賞者は次の通り。

<北部>

▽1年女子 (参加者94名)

- ▶団体戦 ①登美ヶ丘B② 法隆寺国際A③平城F
- ▶個人戦 ①木下 加央里(登美ヶ丘)②佐野 江里子(郡山)③ 田井中 咲衣子(登美ヶ丘)

▽2年女子 (参加者58名)

- ▶団体戦 ①奈良北B②平城D③西の京A
- ▶個人戦 ①下垣内 美玖(奈良北)②岡田 麻央(郡山)③中嶋 七海(平城)

▽3年女子 (参加者12名)

- ▶団体戦 ①法隆寺国際A②奈良高専A③磯城野A
- ▶個人戦 ①弘 佳菜(法隆寺国際)②大前 このみ(磯城野)③中森 麻貴(法隆寺国際)

▽1年男子 (参加者70名)

- ▶団体戦 ①平城C②郡山A③平城B
- ▶個人戦 ①和田 真洋(奈良大附属)②松本 僚太(法隆寺国際)③野村 和豊(奈良)

▽2年男子 (参加者69名)

- ▶団体戦 ①平城B②平城D③平城C
- ▶個人戦 ①津田 佑介(奈良北)②畑生 昂俊(平城)③山田 凌輔(平城)

▽3年男子 (参加者20名)

- ▶団体戦 ①法隆寺国際A②奈良高専A③磯城野A
- ▶個人戦 ①竹森 健吾(法隆寺国際)②辰己 晃司(奈良高専)③駒谷 祐樹(奈良高専)

<南部>

▽1年女子 (参加者59名)

- ▶団体戦 ①桜井A②高田商業C③高田商業A
- ▶個人戦 ①設楽 友貴(桜井)②大島 映里(橿原)③森 奈都美(榛生昇陽)

▽2年女子 (参加者56名)

- ▶団体戦 ①橿原B②桜井D③高田商業A
- ▶個人戦 ①樋口 若奈(橿原)②重久 理恵(桜井)③松村 知妃呂(五條)

▽3年女子 (参加者24名)

- ▶団体戦 ①高田商業A②五條B③橿原A
- ▶個人戦 ①寶示 綾香(高田商業)②土本 夏生(五條)③吉田 理映子(高田商業)

▽1年男子 (参加者73名)

- ▶団体戦 ①高田商業B②大宇陀A③桜井B
- ▶個人戦 ①本川 侑樹(高田商業)②坂元 亮太(桜井)③柴村 遼(高田商業)

▽2年男子 (参加者62名)

- ▶団体戦 ①橿原A ②高田商業A③五條B
- ▶個人戦 ①多田 京平(五條)②宮奥 祐樹(橿原)③渡邊 弘樹(高田商業)

▽3年男子 (参加者26名)

- ▶団体戦 ①橿原A ②王寺工業B③王寺工業C
- ▶個人戦 ①福本 大祐(王寺工業)②遠山 雄人(橿原)③中岡 拓也(橿原)

第60回 三十三間堂大的全国大会

成人男子の部

吉田 誠宏さん(天理大)優勝!!!

奈弓連だより

■奈良市弓道協会練習会

1月31日(日)今年初めての奈良市弓道協会練習会に、御弓師、二十一代 柴田勘十郎先生をお迎えし、弓についての勉強会をおこないました。

息子さんが実際に弓を作成しながら、弓が出来るまでの工程の説明、素材や接着剤の話、又 季節や温度によって、弓に与える影響など興味深いお話を聞きました。

参加者40名は、縄を巻き、105本もの楔(くさび)を打つ職人技を熱心に拝見し、多くの方から弓の扱い方についての質問が飛び交いました。



後半には、成りの悪い弓を火入れし、たくさんの弓を矯正していただきました。

今まで、このような機会が無かったので、大変参考になりました。今回学んだ事を生かし、これからも弓を大切に扱って行きたいと思えます。

(奈良市弓道協会 松村 由喜子)

特別寄稿

第4回

弓馬術礼法小笠原教場の三十世宗家、小笠原清信氏が昭和42年2月にラジオ・テレビで話されたときの原稿の一部を御分けします。(文章、文字は原文のまま)

中埜伯大学藤原孝澄

本日は物を持つ「こつ」について申し上げます。

近頃週刊誌等にエチケットとして、有名美容師、又俳優、又旧華族の方が色々指導されていますが、基本を知らずして唯自己の狭い常識にて解釈している方が多く見られます。日常行動の常識ですからそれはそれで良いのですが、然し影響を多く与える週刊誌等の指導は、単なる常識では困ります。広い社会常識と裏付けの時論が必要です

何故こうするのかの裏付けの意味です。

今一つは日本の美は唯美しさだけではなく、それは用(実用)効用が伴う事が必要です。この用の為には一切の無駄を省いた省略が美を伴います。

そして物を持った格としては、何も持たず素手で真似をただで美しさが伴う事がコツです。ある週刊誌で襖の開け方で必ずこうすべきだと云う指導に両手を横にたれておぼけの様な格好がありました。その隣の写真はお茶碗の持ち方で、お寿司屋で大きな湯呑をフーフー吹きながら飲む格好でした。困ります。

さて物を持つ格ですが、基本は円相にして水走りです。手腕で円を作って下さい、そして手首から先も肩の線からなだらかにする事です。美しさを消すのは肘と手首ですので、殊に注意しましょう。この円相を物によって移し替えるのです。急須等を持つ時、茶碗を持つ時皆同じ事です。

次に高さ及び位置ですが、円相を作って静かに上に上げて御覧下さい。目から上にあげると筋肉の使い方が変わります。今度は下におおして下さい、乳から下はぶらさげる、目から上はかかげる事になります。物によって大小があり、又水の入っている物は斜めにできません。重さによっても違います。例えば本等は円相を作って手掌を上に出します。この斜めの所に本を真直ぐに置くのです。これは裏から見ればお解りの様に、対角線に斜めに持っている事は全体をのせている事で、一番粗々が少ない持ち方です。

この様に物を持つのは要は粗々が少ない事、落としたりこぼしたりしない様に持って、しかもそれが美である事が必要なのです。そしてその格は無駄の動きを省いた省略なのです。(以下 続く)

4月～5月 行事予定 (抜粋)

4月18日	県総合選手権大会
4月25日	県高校選手権大会
5月2日	県中学校練成大会
5月4日	総体団体県一次予選
5月30日	称号者大会

編集後記：

情報流通はインターネットが即時性、常時性の点でプリントメディアより優れていることは議論の余地はありません。県のHPも軌道に乗ってきたことから「奈弓連便り」の存在意義も再考の時期にきているのではないのでしょうか。皆さんのご意見をお聞かせください。